学校・PTAは、自校の課題解決に向けてどう取り組んでいるか。

須賀川市立西袋第二小学校PTA会長 樽川 孝二

学校の概要

本校は、児童数83名(6学級)、教職員数15名、PTA会員73名の小規模校である。須賀川市の西部に位置し、自然環境豊かな地域である。学区は吉美根、袋田、大桑原という3つの地区からなっており、その中に「大桑原のつつじ園」があり、春になると多くの観光客が地域を訪れる。平成5年には、地域が待ち望んでいた新校舎が完成し、田園の中にひととき美しく映える近代的な校舎となった。地域住民の学校に対する関心は高く、PTAは諸活動に協力的であり、年間を通して樹木や花壇の整備作業などに参加したり、地域探検やスーパークリーン作戦などの学校行事にも多くの保護者がボランティアとして協力したりと、本校の教育活動の大きな原動力となっている。

1 自校の課題

- (1) 児童の豊かな人間性を育てていく活動へのPTAのサポート
- (2) 家庭の教育力を高めていくための工夫
- (3) 児童を守り育てる健全な地域を実現するための、学校・保護者・地域との連携

2 課題解決に向けた取り組み

(1) 緑化活動を通して、児童の協力する気持ちや優しさを育てる

「西袋二小といえば学校緑化」と言われるほどイメージが定着してきている。園芸委員会を中心とした全児童で、苗植え、水くれ、除草など、一生懸命活動してきている。その活動が伝統的に引き継がれていく中で、児童は友達と協力する気持ちや、動植物を大切にすることを育まれている。

年2回の学校環境を整える奉仕作業や、その他資源回収、各種大会の支援活動など、児童がのびのびと学習・活動できるようにとPTAがサポートし、学校と連携を密にしている。

(2) MCL(メディア・コントロール・ライフ)推進運動に取り組み、家庭生活を充実させる

家庭の教育力を高める一環として、西袋地区では今年度からMCL(メディア・コントロール・ライフ)推進運動に取り組んでいる。親子でじっくりと話をする機会や、楽しい体験・思い出などを共有する時間がとても大切である。しかし、実際の生活を振り返ってみると、大人も子どもも自分の仕事や勉強でかなり忙しい毎日を送っている。もし忙しくなかったとしても、お茶の間ではいつもテレビが映っていたり、子どもはゲームをやっていたり、また携帯電話やパソコンに夢中になっていることも多い。家族で一緒に過ごす時間は、意外に少ないと考えられる。

小学校・中学校・保護者・地域が一体となって、メディアについての理解を深め、メディアを主体的にコントロールすることにより、子ども達の健全育成や家庭学習時間の確保、家族のつながり・地域のコミュニティの進展を図るなど、新たな生活のリズムが形成できるように推進していきたい。

6月14日に推進大会を行い、各団体がそれぞれの目標を設定し、実際の活動がスタートしている。本校では、3つの約束を決めた。

ゲームやパソコン・テレビは、1日2時間をこさないように使います。
週に1日は、テレビを見ない日を決めます。
家の手伝いを毎日続けます。

7月1日～7日までの取り組み状況をアンケート調査してみたところ、まだ十分に達成できてはいませんが、少しずつ意識して家族の時間を増やそうとしている家庭が多く見られた。今後も継続して、努力していきたい。

(3) 学校ホームページ，PTA会報等による情報の発信と受信を積極的に行う

本校のホームページは、今年度、本校の特色である花いっぱいのきれいな校庭の学校に合わせたホームページに全面的にリニューアルした。画面のデザインやレイアウト、マウスポイントの蜂のデザイン等、保護者や児童、本校卒業の中学生のアイデアを生かした構成になっている。また、児童の生き生きとした活動をトップページにおいて、写真で紹介したり、毎日ブログを更新したりと工夫を凝らした。

本校の目指すホームページは(PTA会報も含めて)毎日情報を更新するなど積極的に発信し、学校の教育活動の意図や日々の様子を地域や保護者に伝えることで、保護者の方々や地域の方々に学校やPTA活動に関心をもっていただき、支援さらには積極的に協力していただき、児童を守り育てる健全な地域社会の実現へとつなげていくことをねらっている。

今後も継続して、充実したホームページづくりに取り組んでいきたいと考えていますので、ぜひホームページをご覧いただき、ご意見をいただければ幸いです。